

権利擁護／虐待防止

事例検討編④

②「顕在化」している虐待行為」と「潜在化している虐待行為」

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、顕在化している虐待行為の背景には潜在化している虐待行為があることに気がつくことをねらいとする。

研修の進め方①

まずは、次の事例を読み上げます。

事例（Aスタッフのことば）

Aスタッフは高齢者施設での介護経験が豊富で、即戦力として期待されて中途採用されました。Aスタッフ自身もそのことを十分に理解し、この施設のやり方を早く覚えようと取り組むほか、人懐っこい性格も駆使して、他のスタッフや利用者とも積極的に関わり信頼関係の構築に取り組んでいます。

Aスタッフは新しく入所してきたBさんの担当になりました。Bさんには子がいません。夫が亡くなった後はずっと一人で暮らしてきました。

Aスタッフは相談員から簡単な引き継ぎを受けた後、Bさんの居室に行き、Bさんに向き合って「Bさん、今日からよろしくお願いしますね」と挨拶しました。そして、ベッド横の床頭台に置いてある写真立てを指さし、「この写真はBさんの息子さん？」と質問しました。そのとき、Bさんの表情が一瞬くもりましたが、そのことにAスタッフは気がつきませんでした。Bさんが「いいえ、夫です」と答えると、Aスタッフは思わず「あっ！ そうだったそうだった。お子さんがいないって聞いていました。若いからてっきり息子さんかと思っちゃった！ あはは」と言ってしまう。「早くに夫を亡くしましたので……」と話すBさんに「あー、そうだったんだ。でも、イケメンの父さんだわ」と言いました。

事例（続き）

Aスタッフは、その後も訪室のたびに写真に向かって「父さん、待っててね。これから母さんを食事に連れて行きますから」と言ったり、「父さん、母さんをレクに連れて行きます。お留守番、よろしくお願いします」と話しかけました。

またBさんに対しても「父さんがあの世で心配しないようにリハビリがんばろうね」と言ったり、「今日は一杯食べたねー、きっと父さんもあの世で喜んでるよ」と言ったりしました。

ある日、Aスタッフがいつものように写真に話しかけて、「さあ、レクに行くよー」と言うと、突然Bさんから「あなたに夫のことを父さんなんて気安く呼ばれる筋合いはない！」と大声で怒鳴られてしまいました。

研修の進め方②

次の質問を参加者に投げかけます。参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

①「顕在化している虐待行為」は何だと思えますか？

※うまく答えが出てこない場合は、「前回と同じような答えでも構いません」と投げかけます。

②「潜在化している虐待行為」は何だと思えますか？

※うまく答えが出てこない場合は「このまま放っておくとはっきりした虐待になりそうな行為がないかどうか考えてみましょう」と投げかけます。

個人ワーク(10分)

Aスタッフはどのような虐待をしたと思いますか？

Aスタッフがしたと思われる虐待行為について、整理しましょう。

1)「顕在化している虐待行為」は
何だと思いますか？

2)「潜在化している虐待行為」は
何だと思えますか？

研修の進め方③

参加者に答えてもらったら、グループワークに入ります。

グループワークのテーマ・・・「この事例において見える虐待行為と見えない虐待行為について考える」

・参加者はそれぞれの虐待行為について意見を出し合い、話し合っていきます。

☆このグループワークのねらいは、見えない虐待行為について気づくことです。それは、見える虐待行為の裏側に何があるのか考えていくことにつながります。Bさんや主任がなぜそんな行為やそんなことを言ったのかと考えることで、彼らの考え方や態度のあり方に気づいていくこととなります。話し合いを進めていく中で、「何もしないという行為」についても気づいていくこととなります。そのために、「正解は〇〇だ」ということを決めていくことではありません。

* グループワークをしている中で、話題が全く違うものへとずれていかなければ、話し合っている内容を修正する必要はありません。話し合いをしていく中で、自分たちの職場で起きうる虐待行為についての意見交換や過去にあった虐待行為についての情報交換になることが多くなると考えられます。

グループワーク(10分)

3)この事例から、見えない虐待行為について話し合ってみましょう。

研修の進め方④

- ①話し合いが終わったら、各自でワークシートに「潜在化している虐待行為」を記入してもらいます。
- ②記入が終わったら、それを一人ひとり発表してもらいます。
- ③ワークシートを回収して、全員の考え方を整理して、フィードバックして、研修は終了です。

個人ワーク(10分)

4) ワークシートに「潜在化している」虐待行為を記入しましょう。

この教材を終えるにあたって

虐待行為は、個々の職員の意識と職員間のコミュニケーション不足が増えていく過程の中で起きていくものだと考えられます。

「忙しいから仕方がない」とするのではなく、「忙しい時はどうすればよいのか」と日頃からみんなで考えておくことが、虐待行為の防止につながることをしっかりと認識しなければなりません。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行